別添資料1

砂防-1 草住川通常砂防事業の経緯

審議経過	再評価	I	期	事業費	в/с	概要
一个	の理由	着工	完了	(億円)	D/ C	1995 安
当初 H21新規評価	-	H21	H25	6.0	2.85	砂防堰堤工 2基 草住川(イ) H11.0m L42.0m V3,200m ³ 草住川(口) H8.5m L36.0m V1,600m ³
第1回審議 (H30:今回)	事業採択後 10年経過	H21	H35	6.00	4.24	砂防堰堤工 2基 草住川(イ) H15.5m L59.0m V3,738m ³ 草住川(口) H10.0m L32.7m V1,416m ³

事業	集名		通常砂	防事業		地区	2名	草住川	所在地	<u>t</u>	1	長崎市
	年度	<u> </u>		年度		事業		長崎県	担当部部	名	土木	部砂防
		本渓 る保全 施設)、	対象区 市営信	崎市南 【域に、 主宅(集	民家32 会所)等	戸、国道 穿の施討	首200m、市道:	ミ渓流であり、土 220m、及び鶴見 ^ら、対策工事(る。	台保育園(災害時	要援護者	関連
草草			な事業									
更								体積 V= 3,73 体積 V= 1,41				
	#	T	前回道	再評価	計画	変更		完成予算	2年度			11 1 44
		度		度	" 年		着工時	前回再評価時	計変時	再	評価	休止期
		21		_	_	-	H25	-	74	Н	135	
	事					業費(千円)		前年度記		ì	售 捗率
	業		に時	前回	可再評価	5時	計画変更	再評価時	(千円			(%)
	費	600	000									
権の		(1)整 草住川 (2)未	(イ)は	は平成2 なび工事		こ完成。 の理由			410,00	0		68.3
事業の進歩		(1)整 草住川 (2)未 道路事 (3)関	備効果はインは着工及で、	は平成2 なび工事	6年度に 遅延等 より事	こ完成。 の理由	及び解決の見	見通し	410,00	0		68.3
業の進		(1)整 草住川 (2)未 道路事	備効果はインは着工及で、	t平成2 なび工事)調整に	6年度に 遅延等 より事	こ完成。 の理由	及び解決の見 の延伸となった	見通し た。		0		
業の進		(1)整 草住川 (2)未 道路事 (3)関 特にな	開かりは一番工業との	t 平成2 び工事)調整に まの整備	6年度に 遅延等 より事! 状況	こ完成。 の理由 業期間の	及び解決の見の延伸となった	見通し	410,00) •	В	68.3
業の進		(1)整 草住川 (2)未 道路 (3)関 特にな (1)地	開いては、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番では、一番で	は平成2 び工事に いいまで である である である である である である である である できる できる できる できる できる できる できる できる できる かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいま	6年度に 遅延等 より事業 計状況	こ完成。 の理由 業期間(及び解決の見の延伸となった	見通し た。) -	В	
業の進歩 仕		(1)整川 (2)未事 (3)関 特にな (1)元よ	(情) () 着業 連し 元り 然の () 元り	は平成2 び工事に まの整備 益者事業	6年度に 遅り事 状 一町成を 無板を ままり ままり ままり ままり ままり ままり ままり かいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう はいしゅう はいしゅう かいしゅう はいしゅう かいしゅう かいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう かいしゅう はいしゅう はい	こ完成。 の理問の 業期間の 意味の が が が め ら れ	及び解決の見の延伸となった	記通し た。 価 AA		<u> </u>	В	
業の隹歩 社会・経斉等の青		(1) 住 (2) (3) (4) (1) (2) (4) (3) 事集 (4) (4) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	.備() 着業 連し 元り 然し 業は会効イ) 工と 事 (早 や が、所 集は 及の 業 受期 生 地保等	は で は で は で で で で で で が ま の 一	6年 遅よ 状 町概 保 ぼにが 別 村成 全 す国あり 別 対	この 東 お で	及び解決の見の延伸となった の延伸となった 一評 向れている。 特記すべき事	記通し た。 価 AA	(災害時要 は被害を及ほ	爰護者間	関連施設 定される	(i)、市営
業の隹歩 仕会・経斉等の情勢及		(1) 草 (2) 道 (3特 (1地 (2特 (3本宅推あを)) 未事 関な 地よ 自な 事業集す。	.備() 着業 連し 元り 然し 業は会る効イ) 工と 事 (早 や が、所こ果は 及の 業 一受期 生 地保等と	は、び調のを基の活は、全等では、び調のをおります。 大き はい	6年 遅よ 状 町概 保 ぼにが 別 村成 全 す国あり 別 対	この業 ジボ 観 果 市土安成。 由間 意ら で 道石心	及び解決の見の延伸となった の延伸となった 一評 向れている。 特記すべき事	記通し た。 価 AA 「項 のでは、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本	(災害時要 は被害を及ほ	爰護者間	関連施設 定される	(c)、市営 。当事業
業の隹歩 │ 辻会・径斉等の青勢及び │		(1) 草 (2) 道 (3特 (1地 (2特 (3本宅推あを)) 未事 関な 地よ 自な 事業集す。	.備() 着業 連し 元り 然し 業は会る効イ) 工と 事 (早 や が、所こ果は 及の 業 一受期 生 地保等と	マ び調 の 一 益の 活 域全の当 水工整 整 一 者事 環 に対応地 に対応地 一 本 東 境 及象 急地	6年 遅よ 状 町概 保 ぼにがの度 等事 第一等を の 効道りま	この業 う求 観 果市土安 標成。 由間 意ら で 道石心等	及び解決の見の延伸となった の延伸となった 一評 向れている。 特記すべき事	記通し た。 価 AA 「項 のでは、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本では、基本	(災害時要は がでは がでは は で で で で で が に が に が に る に る に る に う に う に う に う に う に う に う	爰護者間	関連施設 定される	か、市営事業を
業の進歩 社会・経済等の情勢及びその		(1) 草 (2) 首 (3) 年 (2) 1 (3) 年 (4) 事	.備() 着業 連し 元り 然し 業は会る効イ) 工と 事 (早 や が、所こ果は 及の 業 一受期 生 地保等と	は で は で で で で で で で で で で で で で で で で で	6年 遅よ 状 町概 保 ぼにがの度 等事 第一等を の 効道りま	この業 うずく 観 果・大全 標 児成 理間 意ら で 道石心 等前 節	及び解決の見の延伸となった の延伸となった 神の れている。 特記すべき事 民家32戸及で 流確保するとと	通した。 価 AA 「項 会保育」 場合に、安定した	(災害時要は が被会経済活動を でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	爰護者間 を動して効	関連施設 定される 果を発揮	か、市営業
業の進歩 社会・経済等の情勢及びその状況		(1) 草 (2) 首 (3) 年 (2) 1 (3) 年 (4) 事	備() 着業 連し 元り 然し 業は会る 業効イ) 工と 事 (早 や が k所こ に果は 及の 業 受期 生 地保等と 関	では、	6 遅よ 状 町概 保 ぽに砂区 評 施 戸度 延事 況 村成 全 す国あ安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	この業 うずく 観 果・大全 標 児成 理間 意ら で 道石心 等前 節	及び解決の見の の延伸となった 向れている。 特記すべ戸した。 流確保 一時電	通した。 一個 AA 「項 会は基大なともに、安定した。	(災害時要は が被会経済活動を でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	援護者は動に効	関連施設 定される 果を発揮	か、市営事業を
業の進歩 社会・経済等の情勢及びその状		(1) 草 (2) 首 (3) 年 (2) 本宅推あ (4) 整川 未事 関な 地よ 自な 事業等す。 事 必	備() 着業 連し 元り 然し 業は会る 業効イ) 工と 事 (早 や が k所こ に果は 及の 業 受期 生 地保等と 関	t で	6 遅よ 状 町概 保 ぽにがの 評 施度 等事 第一等をの 効道り会 非	この業 うずく 観 果・大全 標 児成 理間 意ら で 道石心 等前 節	及び解決の見の延伸となった。 向れている。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	通した。 価 AA 「	(災害時要は が被会経済活動を でである。 では、 でである。 でする。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でする。 でである。 でである。 でする。 でである。 でである。 でする。 でする。 でである。 でする。 でする。 でである。 でである。 でである。 ででもでも。 です。 ででもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもでもで	爰護者間 を動して効	関連施設 定される 果を発揮	か、市営業

		前回評価時	再評価時	評価	備考
必要性	公共施設	児童クラブ、保育園 公民館、国道、市道	児童クラブ、保育園 公民館、国道、市道	0	
	受益戸数	32	32	0	
重要性	地元要望 の有無	有	有	0	
緊急性	緊急度合			高	
経済性	投資効果	2.85	4.24	中	

評価 С (AA) В

[土木部としての総合評価と対応方針]

(事業継続

事業見直し継続

休止

中止

総合評価に係るコメント

総合評価

草住川については、全体計画で砂防堰堤工2基の計画をしており、そのうち1基が完成している。当事業は費用対効果からみても経済性は妥当と判断され、保全対象の重要性、災害時の地域経済への影響を考慮した結果、砂防堰堤による土砂対策の施工が不可欠である。このため、今後も事業を継続し当地区 における土石流対策の概成を目指したい。

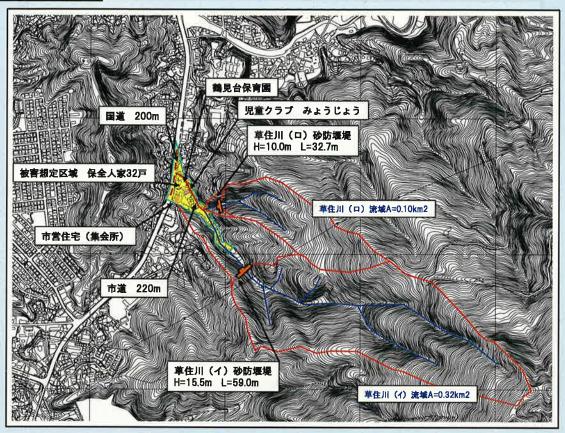
再評価対象事業

砂防-1 草住川通常砂防事業 (土石流対策施設)

長崎県



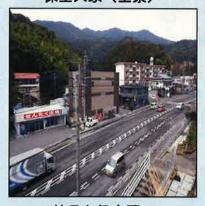
事業概要



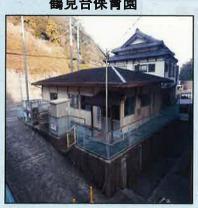
3

保全対象

保全人家(全景)



鶴見台保育園



国道499号





市道草住町1号線



草住市営住宅集会所

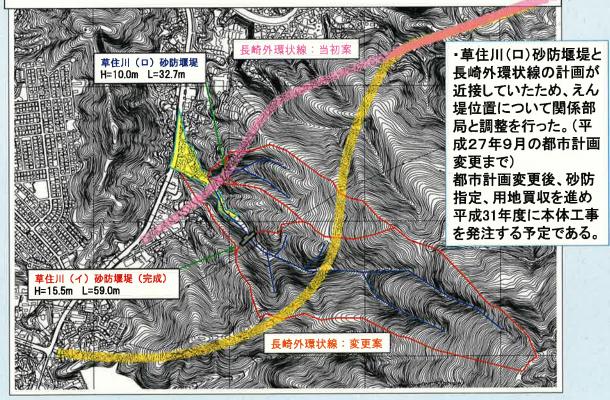


進捗状況



再評価に至った理由 【完了工期】H25(前回)→ H35(変更)

・長崎外環状線について関係部局との調整(平成27年度まで)



費用対効果分析

【B/C】2.85(前回)→ 4.24(現行)

〔マイナス要因〕

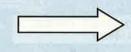
・工期の延長(関係部局との調整)

〔プラス要因〕

〔その他要因〕

・費用対効果算定マニュアルの改定

対応方針 (原案)



継続

別添資料1

砂防-2 田中(2)地区急傾斜地崩壊対策事業の経緯

5克 €	再評価	I	期	事業費	B/C	概要
審護経過	の理由	着工	完了	(億円)	6	纵女
当初 (H21新規評価)		H21	H27	2.50	2.14	法面工 A=5,000m2
第3回審議 (H30:今回)	事業採択後 10年経過	H21	H35	6.64	1.22	現場吹付法枠エ A=7,560m2 現場打法枠エ A= 590m2 ノンフレームエ A=2,380m2 アンカーエ A= 500m2

事業再評価調書

	業名	思傾:	斜地崩	碳刈束:	事業 地	区名 田	中(2)地区	所在地		長崎市
	年度		H30		4.00	美主体	長崎県	担当部課		土木部砂防課
	- ×	当地	発生し	F成20年 ている。	今後の降雨	市役所を通じ、 によって土砂 て工事を行うもの	地元より要望 書 災害が発生する のである。	Fが提出されて 危険性が高い	こおり、過え いことから、	法に斜面 ,住民の不
#		(2)主	な事業	内容		(前回)			
事業概要			現場吹 現場打	法枠エ ノームエ	エ A=7,56	0m2 0m2	工事長L=150 法面工 A=5			*
	着	T	前回再		計画変更		完成予:	定年度	0.	休止期間
		度	年		年度	着工時	前回再評価時	計変時	再評価	i м.ш.#///
	Н	21			–	H27	<u> </u>	_	H35	
	事				全体事業費			前年度ま		進捗率
	業	着コ		前回	再評価時	計画変更	再評価時	(千円)		(%)
	費	250,			一 状況(供用開	-	664,000	424,000		63.9
業 の	d	現地	調査の	結果、対			見通し らり広大であった	ため、対策に	時間を要し	したことから、完
業 の 進	-41	現地:	調査の	結果、対 ・平成35	村策必要斜面 5年度まで延	が当初計画。		ため、対策に	時間を要(したことから、デ
業 の 進		現地:	調査の 年度を 連事業	結果、対	村策必要斜面 5年度まで延	面が当初計画。 長する。 		ため、対策に ・ (A)		したことから、デ
業の進捗	d	現地 了予定 (3)関 特にな (1)地	調査の 年度を 連事業 一元(受益	結果、対 ・平成35 の整備 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	村策必要斜面 5年度まで延	が当初計画。 長する。	らり広大であった			
業の進捗 社会・	d	現地 了予定 (3)関 特にな (1)地 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	調年 連し 元要 然 受望 や 生	結果、文 の整備 市は で強く、 は	対策必要斜面 5年度まで延 状況 町村等)の 協力的である	が当初計画。 長する。	・り広大であった 平価 AA			
業の進捗 社会・経済等の情		現予 (3) 関 (1)元 (2)に (3)全 (3)全 (3)全 (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を	調年 連し 元要 然し 業象査度 事 (受望 や がとし 業) せいし	結平の 益強活 域で と は 環 に 市 は 境 及 道・	対策必要斜面 5年 大沢 村かのでである (まず) かまま (まず) かまま (まず) かまま (まず) がまま (まず) がまま (まず) がままま (まず) がままま (まず) がまままま (まず) がままままままままままままままままままままままままままままままままままま	が当初計画。 長する。 意向。 で特記すべきる	・り広大であった 平価 AA	· (A)	. 1	В
業の進捗社会・経済等の情勢		現予 (3) 関 (1)元 (2)に (3)全 (3)全 (3)全 (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を	調年 連し 元要 然し 業象査度 事 (受望 や がとし 業) せいし	結平の 益強活 域で と は 環 に 市 は 境 及 道・	対策の要針でを表す。 おりま かっぱ かっぱ かっぱ かん	が当初計画。 長する。 前。 で特記すべき しており、これ	*り広大であった 平価 AA 事項 らを保全する事	・ (A)	生命を保証	B ・ で 黄するものであ
業の進捗社会・経済等の情勢及		現予 (3) 関 (1)元 (2)に (3)全 (3)全 (3)全 (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を	調年 連し 元要 然し 業象査度 事 (受望 や がとし 業) せいし	結平の 益強活 域で 連果成 整 よく環 に市 する 備 市協境 及道 る	対策の 大学 で は 大学 で は 大学 で も は 大学 で も は 大学 で も な かが に は 大学 で も は 大学 に は いっぱい は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	が当初計画。 長する。 京向。 で特記すべきる。 しており、これ	ドリ広大であった 平価 AA 事項 らを保全する事	・ (A) により国民の	生命を保証価	В
業の進捗 社会・経済等の情勢及びそ		現予 (3) 関 (1)元 (2)に (3)全 (3)全 (3)全 (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を (3)を	調年 連し 元要 然し 業象 業 一	結平の と 強活 域で 連果成 整 よく環 に市 す 受	対策を大きない。 おおおり かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしょ はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょ はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん は	が当初計画。 長する。 京向 。 で特記すべき しており、これ <u> 可回評価時</u> 14	り広大であった 平価 AA 「 らを保全する事 「 再評価に 21	・ (A) により国民の ・	生命を保証価	B ・ で 黄するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその		現予 (3)に 地の (3)に 地の (4)事 (4)事	調年 連し 元要 然し 業象 業 一	結平の きっぱい はて 連果成 整 よく環 に市 す 受公果の しょう	対策の はい かい がい おい かい かい おい かい おい かい おい かい かい はい 果 密 標 に 一 数 数 のい かい かい おい しゅう かい	が当初計画 長する。 前向 で特記すべき しており、これ が回評価時 14 市道200m	であった 平価 AA 事項 らを保全する事 再評価時 21 市道365m	・ (A) により国民の m	生命を保証 価 D	B ・ で 黄するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状		現予 (3)に 地の (3)に 地の (4)事 (4)事	調年 連し 元要 然し 業象 業 慢性 査度 事 受望 や がと に 性	結平の 各強活 域で 連 受公地果成 整 よく環 に市 す 受公地 の	対 年 大	が当初計画。 長する。 京向 。 で特記すべき しており、これ <u> 可回評価時</u> 14	り広大であった 平価 AA 「 らを保全する事 「 再評価に 21	・ (A) により国民の ・	生命を保証 価 D	B ・ で 黄するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況		現予 (3)に (3)に (3)に (3)に (4)に (4) (4) (4) (4) (5) (4) (5) (4) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5	調年 連し 元要 然し 業象 業 世 性 査度 事 受望 や がと に 性性 性 性 地し 関	結平 の 益強活 域で 連 受公地の果成 整 、 、 、 、 環 に市 す 受公地の果成	対 5年 状 町み 保 ぼ人 平 戸 施要 無 学 で 観 果密 標 解	が当初計画 長する。 前向 で特記すべき しており、これ が回評価時 14 市道200m	であった 平価 AA 事項 らを保全する事 再評価時 21 市道365m	・(A) により国民の m	生命を保証 価 D	B ・ で 黄するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況変		現予 (3)に (2)に (3)全 (4) 軍 緊	調年 連し 元要 然し 業象 業 三 臣 臣 住 査度 事 (受望 や がと に 三性 性性 性のを 業 一 益が 生 地し 関	結平の 益強活 域で 連 受公地の緊果成 整 よく環 に市 す 受公地の緊 (対5年 状 町3 保 ぼ人 平 戸施要無きの必ま つのあ 点 物設望無合 のあ 点 集 等 前	が当初計画 長する。 前向 で特記すべき しており、これ が回評価時 14 市道200m	であった 平価 AA 事項 らを保全する事 再評価時 21 市道365m	・ (A) により国民の m (n	生命を保証 価 D	B ・ で 黄するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況変		現予 (3)に (3)に (3)に (3)に (4)に (4) (4) (4) (4) (5) (4) (5) (4) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5	調年 連し 元要 然し 業象 業 三 臣 臣 住 査度 事 (受望 や がと に 三性 性性 性のを 業 一 益が 生 地し 関	結平 の 益強活 域で 連 受公地の果成 整 、 、 、 、 環 に市 す 受公地の果成	対5年 状 町3 保 ぼ人 平 戸施要無きの必ま つのあ 点 物設望無合 のあ 点 集 等 前	が当初計画 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	FU広大であった F価 AA F項 FA FA FA FA FA FA FA FA	・ (A) により国民の で で て 「 「 「 「 「	生命を保証 (価) () () () ()	賞するものであ
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況変	[+*	現予 (3)に (2)に (3)全 (4) 重 緊経 (4) 事 必 重 緊経 (4) 事 の 重 緊 (5) を (4) を (調年 連し 元要 然し 業象 業 医 医 良年 査度 事 (受望 や がと に 性 性性でのを 業 益が 生 地し 関	結平の 益強活 域で 連 受公地の緊投果成 整 よく環 に市 す 受公地の緊投果成	対5年 状 町30 保 ぼ人 平 戸施要無き効・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が当初計画 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	であった 平価 AA 事項 らを保全する事 再評価時 21 市道365m 有	・ (A) により国民の m (n	生命を保証 (価) () () () ()	B ・ で 黄するものであ
・経済等の情勢及びその状況		現予 (3)に (2)に (3)全 (4) 重 緊経 (4) 事 必 重 緊経 (4) 事 の 重 緊 (5) を (4) を (調年 連し 元要 然し 業象 業 と 性 性性性 のを 音度 事 一受望 や がと に 性性性性 総合 まか 生 地し 関	結平の き強活 域で 連 受公地の緊投 評果成 整 よく環 に市 す 受公地の緊投 評し、3、 備 市協境 及道 る 益共元有急資 とし	対5年 状 町3 保 ぼ人 平 戸施要無きの必ま つのあ 点 物設望無合 のあ 点 集 等 前	が当初計画。 記長する。 で特記すべきる。 で特記すべきる。 で特記すべきる。 で特記すべきる。 で特記すべきる。	FU広大であった F価 AA F項 FA FA FA FA FA FA FA FA	・ (A) により国民の で で て 「 「 「 「 「	生命を保証 (価) () () () ()	賞するものであ

再評価対象事業

田中(2)地区急傾斜地崩壊対策事業 砂防-2 (急傾斜地崩壊防止施設)

長崎県





再評価に至った理由(1)

【完了工期】H27(前回) → H35(変更)

現地の詳細測量の結果、対策を必要とする急勾配斜面の分布が当初 予定よりも広かったことにより追加の対策工が必要となった。

工事概要(当初)

工事概要(変更)

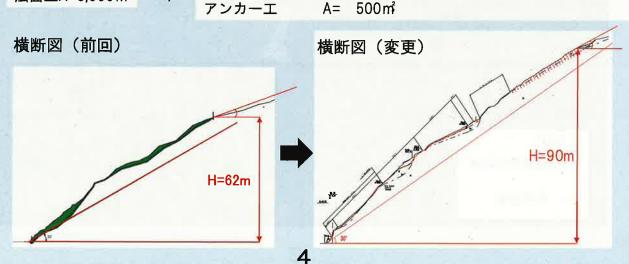
工事長L= 150m 法面工A=5.000㎡



工事長

L= 210m 現場吹付法枠工 A=7,560㎡ 現場打法枠工 A= 590㎡ ノンフレームエ A=2.380㎡

A= 500 m²

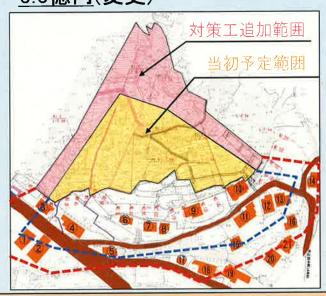


再評価に至った理由(2)

【事業費増】 2.5億円(前回)→ 6.6億円(変更)

現地の詳細測量結果における 対策範囲拡大に伴う事業費の増

当初被害想定区域 現行被害想定区域



[事業費増の主な内容]

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①対策面積の増	約3.9億円	現地の詳細測量・調査の結果、当初予定以上に対策が必要な範囲が 拡大したため。
その他	約0.2億円	労務単価・資機材等の単価上昇、現地精査による数量変更等
計	約4.1億円	

5

費用対効果分析

【B/C】2.14(前回)→ 1.22(現行)

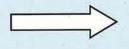
〔マイナス要因〕

- ・事業費の増(対策範囲拡大)
- ・工期の延長(対策範囲拡大)

〔プラス要因〕

・保全対象人家の増(14戸→21戸)

対応方針 (原案)



継続

砂防-3 崎ノ谷川火山砂防事業の経緯

STE 5	再評価	H	期	事業費	в/с	概要
審議経過	の理由	着工	完了	(億円)	6/0	194.安
当初 H21新規評価	-	H21	H25	2.5	2.69	砂防堰堤工 1基 H14.5m L60.0m V2,500m3
第1回審議 (H30:今回)	事業採択後 10年経過	H21	H35	3.0	5.95	砂防堰堤工 1基 H12.0m L56.5m V3,800m3
				*		
				"		

								5調書				
事業				防事業		地区名		ノ谷川	所在			東早市
评価	年度			0年度	1	事業主体		長崎県	担当部	課名	土木	部砂防調
事業概要		よる被ら、下	谷川火 害域に 流で、 な事	《山砂防 想定され 主民の人 土石流 集内容	る保全、命等に 災害を未	区域にJF 基大な被 e然に防山	長崎本総書を及ぼ 書を及ぼ とし、民生	ける土石流危 泉、国道207号 す恐れがある の安定を図る で で で で で で で で で で で で で で の で で で で	、民家21戸 ため、新た 。 (前 回)	の施設がに砂防が	があるこ	ことか を備
-	-	- 1	* できる	五部海口	社画亦	雷!		完成予算	や年度			
- 1		连度		再評価 度	計画変 年度		工時	前回再評価時	計変時	重	評価	休止期
ŀ		121		- /文	一一	1	H25	——————————————————————————————————————			35	
ŀ	事				全休事:	業費(千円			前年度			佳捗率
- 1	業	着コ	一陆	前同	再評価		画変更	再評価時	(千円		1	(%)
- 1	書	250,		100124	T 7 11 1141 P	.ч и		300,000	64,00			21.3
集した		用地がみ、平	を渉(f 成30	代替地に 年度中に	関するには用地	の理由及協議等)に 協議等)に 関収が完	二時間を引	の見通し 要したが、平成 9見通しである	29年度に 。	也権者と	の交渉	が進
業の進歩		用地3 み、平 (3)関 特にな (1)地 地元信	を渉(付成30年)連し 元(受も)	大替地に 年度中に 業の整体 益者、「 早急なこ	関する には用地 構状況 市町流 大石流	協議等)は 関収が完 所の意向 対策を望ん	時間を割けたなる	要したが、平成 見通しである 価 AA	29年度に ^は 。 ・ (A	也権者と	の交渉	が進
業の進捗 社会・経済等の情勢		用み (特 (地 (特 (本被に) が 関な 地位 自な 事業を安	を成 連し 元民 然し 業は及に が保ます。	代年 業 益早 生 地全す社や中 整 、	では、 関は、状で明石の保証を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	協議収収が発展している。無道にある。果が、このでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	時間を認っている。 ・記すべき ・民家を推進	要したが、平成 見通しである 価 AA	。 ・ A	した場合	B	大な
経済等の情勢及		用み (特 (地 (特 (本被に) が 関な 地位 自な 事業を安	を成 連し 元民 然し 業は及に が保ます。	代年 業 益早 生 地全す社や中 整 、	関は 状 町石 保 ぼ国定活 対用 況 村流 全 す・定済活動	協議収のを制度を対している。関係を対している。関係を対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、対しては、	時間をする。 一時でいる。 ・記すべき ・実業権がる。	要したが、平成 見通しである 価 AA 「本事であり、土をである」とで、これである。	。 A 流が発生 地区の安全	した場合安心を	B には甚 確保す	大なると共
業の進捗 社会・経済等の情勢及びそ		用み (特 (本被に() 1 () 1 () 1 () 1 () 2 () 3 () 3 () 3 () 3 () 5	を成 連し 元民 然し 業は及に が保ます。	代年 業 益早 生 地全す社や中 整 、	関は 状 町石 保 ぼ国定活価 す用 況 村流 全 す・さい 対市さい 対市さい 対策を の 対市さい サービス かい は は は は は は は は は は は は は は は は は は	協議収収が発展している。無道にある。果が、このでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	時では、	要したが、平成 見通しである 価 AA 事項 があい、土で	。 一 流が発生 地区の安全	した場合	B	大なると共
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状		用み (特 (本被に() 1 () 1 () 1 () 1 () 2 () 3 () 3 () 3 () 3 () 5	を成 連し 元民 然し 業は及定業 受も や が保ぼかに	大年 業 益早 生 地全す社連地中 整 、 こ 域対の会す に象と経る	関は、状で町石の保証は、関は、状で町石の保証は、関連は、大町石の保証は、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連には、関連に	協選 (学)	時では、	要したが、平成 見通しである 一事項 「あるこある」 「おるこある。 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」 「おるこある」	。 一 流が発生 地区の安全	した場合:安心を	B には甚 確保す	大なると共
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況変		用み (特 () () () () () () () () () () () () ()	を成 連し 元民 然し 業は及定業 受も や が保ぼかに	代年 業 益早 生 地全する場 公 受地の地中 整 、 こ 域対も会す 公 受地の 人 立 元 有	関は 状 町石 保 ぼ国想済評 腔 数望す用 況 村流 全 す・定活価 と 数望る地 タダ の 効市さ動・	協買 いま 観 果道れに 標 前長等が 意望 で	時では、東北海の大学では、東京の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東洋海の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東京の大学では、東の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東京の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学では、東の大学の大学では、東の大学の大学では、東の大学の大学の大学の大学の大学の大学のいかりでは、東の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の	要したが、平成 ・見通しである 価	。 一 流が発生 地区の安全	・ 場合を で	B には甚 確保す	大なると共
業の進捗 社会・経済等の情勢及びその状況		用み (特 (地) (特 (本被に() 上 上 上 上 上 上 上 上 上	を成 連し 元民 然し 業は及定業 性 (作)の 事 受も や が保またに 性	代年 業 益早 生 地全す 3 男 と 地中 整 、 こ 場 に 類 に 象と経る	関は、状で明石の保証は関連に対している。 は、	協買 いま 観 果道れに指 のを 点 鉄。果等 回崎市 14	時で記しています。 大学	要したが、である。 一番事がある。 一番事があるである。 一番事があるである。 一番事があるである。 一番事があるである。 一番のである。 一番のである。 一番のである。 一番のである。	。 一 流が発生 地区の安全	した場合安心を行	B には甚 確保す	大なると共

[土木部としての総合評価と対応方針]

事業継続 事業見直し継続 休止 中止 総合評価

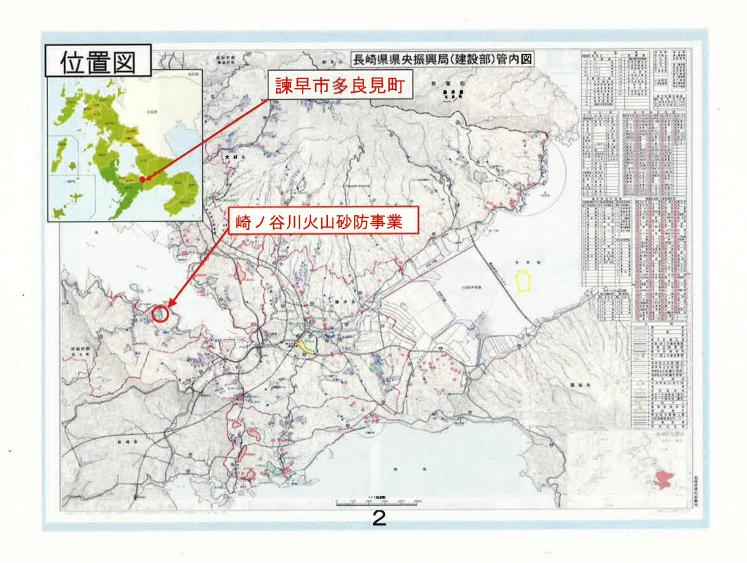
総合評価に係るコメント

用地交渉に時間を要していたが、、平成29年度から解決の方向で交渉が進んでおり、成30年度 には用地買収が完了となる見通しである。当事業は費用対効果からみても経済性は妥当と判断され、保全対象の重要性、災害時の地域経済への影響を考慮した結果、砂防堰堤による土砂対策の施工が不可欠である。このため、今後も事業を継続し当地区における土石流対策の概成を目指 したい。

再評価対象事業

砂防-3 崎ノ谷川火山砂防事業 (土石流対策施設)

長崎県

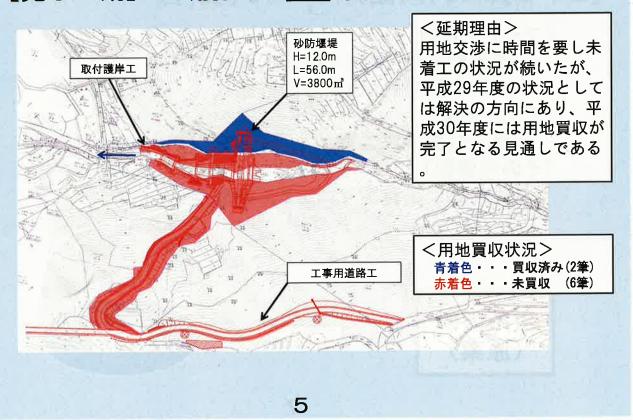






再評価に至った理由(1)

[完了工期]H25(前回)⇒H35(変更)



再評価に至った理由(2)

【事業費増】 2.5億円(前回)→3.0億円(変更)



事業費増の内容	増額	主な増額理由
対策工の追加	約0.3億円	砂防基本計画策定指針改定(平成28年4月)のため、流木捕捉工の計画を追加。また、管理用道路の計画を追加
その他	約0.2億円	・労務単価・資機材等の単価上昇、現地精査による数量変更等 ・用地補償費の追加
計	約0.5億円	

費用対効果分析

【B/C】2.69(前回)→ 5.95(現行)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増額(流木捕足工の追加)
- ・工期の延長(用地交渉の難航)

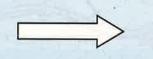
〔プラス要因〕

・保全対象人家の増(14戸→21戸)

〔その他要因〕

・費用対効果算定マニュアルの改定

対応方針 (原案)



継続

別添資料1

砂防-4 白井岳地区地すべり対策事業の経緯

ST - S. ★ 4.2 、□	再評価	I	期	事業費	B/C	概要
審議経過	の理由	着工	完了	(億円)	B/ C	14.5
第1回審議 (H10)	再評価後 10年経過	S57	H20	9.0	4.5	集水井工 3基 集水ボーリング 199本 杭打工 216本
第2回審議 (H15)	再評価後 5年経過	S 57	H20	9.0	2.4	集水井工 8基 集水ボーリング 113本(L=6610m) 横ボーリング 86本(L=4045m) 杭打工 216本(L=2993m)
第3回審議 (H20)	再評価後 5年経過	S57	H25	11.0	2.16	集水井工 7基 集水ボーリング 113本(L=6610m) 横ボーリング 86本(L=4045m) 杭打工 216本(L=2993m)
第4回審議 (H25)	再評価後 5年経過	S57	Н30	14.0	2.24	集水井工 9基 集水ボーリング 137本(L=7810m) 横ボーリング 86本(L=4045m) 杭打工 176本(L=3775m) アンカーエ 125本(L=3065m)
第5回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	S57	Н35	14.0	5.33	集水井工 9基 集水ボーリング 137本(L=7810m) 横ボーリング 86本(L=4045m) 杭打工 176本(L=3775m) アンカーエ 125本(L=3065m)

事業再評価調書

									調書						
事業	(名	地	すべり	対策事	業	地区	名	É	井岳		听在地			市調厂	
	年度		平成	30年		事業	主体	- 5	崎県	担	当部課名	名	土木	部砂	方課
\$		当ばして、別には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次	ていると実家、民民観点の 事業	昭和30元 昭和30元 明和40元 明和40元 明 中地 明 地 地 が 続きる。	33年! 期地す に多大 へり対	こ地す けべり な被 策工 策を	べり防 活動は 書を与 の計画	が止区域に 決静化に えたこと 、 工事が 、 地すべ (前屋	報告され、に指定され、に指定され、に指定されたがいたがい。 昭和 が実施されり対策事が リ対策事が 国	i、主に地 、昭和55 157年か ている。	下水排 年頃か ら事業を	除を制造再開	目的とし 活動が し、現る	た押 報告で 化を の	
業既要		横ホー 杭打ニ アンナ	ーエ		N= N= N= N=	137 86 176 125	本本	137 86 176 125	本 本 本	L= L= L=	7,810 n 4,045 n 3,775 n 3,065 n	n n	7,810 4,045 3,775 3,065	m m	
		工	前回軍		計画変		菜	工時	元 成 前回再評価	予定年度	を時	重	平価	休止	期間
		E <u>度</u> 357	H		4-1:	2		125	H30	TIN DIS	End		35	-	_
	事	T	F14	LU	全体	工業者	(千円		1100	前	年度まで			進捗率	
	業	- 英	工時	前同	再評価			可変更	再評価		イスの (千円)	•		(%)	
	書	- 8-4	0,000		400,000		DI E		1,400,00		105,000			78.9	
		おいて	也すべい	削工(地	下水排	非除工)ಕಾಕ(少	.(アンカー	工)の約3	未により	、/白男	MICHAL	17160	つこ
業の進		おあ (2) てロとの (3)関いる。 オれたクシエ	たもの ままとし、申 連事 かんしょう はいまま はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい ままい はい	川工(地 び等ある。で関し地 のた。 整体になった。 を は が に が に り に り に り に り に り に り に り に り た り た り	事遅延シ (R全文) (Eブエ、 は関係者 帯状況 に関係ない。	等の理 対象が ック下 事によ	里由及である。 一部についまり はり周辺 はまが名	び解決の る緊急性 ついては、 2の田ん)見通し きの高いブ 対策工に。 ぼや井戸 おらず、そ	「ロックのう より活動の 水が枯れ の対応に	対策工を)沈静化 ることへ	を優先 が図 の影	して事 られて 響が慰	業をす いるが 念され	する にブ にあ 美期
事業の進捗社会・経済等の情勢及びその状況変		おあ () て口との () () け川 () () 鉄成推揮 () いる。 オれたクらば [別] りまて調 () 特の道さ進す [列] 必	て、そまとと、申 関連・元まい川 目に 葉べ にする 事 ― 要も 一 着まとと、申 連事・元まる川 然な 業べ国、るも 業 ― 性抑・工人ろに部な 事業・受のまが や。 がり道れこの に	利 な家で関のた 集ま 益対たあ 主 地間ながで考 連 受受地工 び等あし地。 の特 者策、り 活 域直どがで考 連 受受地地 里のるて元 整に、エ本、環 に下が決白え す 益益元	事保 E は関 構い 市事地期 境 及りあい 日本 面戸要遅全づ、係 状い 町 すが 保 ぽ 保る 記地る 評 積数望延立 口工名 況。 村はべり 全 す 全地濫じ。 価	等対ッ事子 等りり也の 効対すし区 指の分か下して の対音べ 別 果象べたの 指標	理多部 り 意	びるいのよう 解緊で田れ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	DEの策やず 通高工井で 通高工井で 域にれ 項 川直なと 再 22 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	「ロックのの りが対対 A 地停 ・	対決 策静 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	優がのし 一一一 一一一 一一 一一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	しら響い B 評は にはにる動	業の念事 受河 関ダぶ	すずる期のなり、
業の進歩 社会・経済等の情勢及びその状況変		おあ () て口との () け川 () () 鉄成推揮 () 100 () 101 () 102 () 103 () 103 () 103 () 104 () 105	て、それには、中間車をよい、目になっていまる。事で、要しても、一角を、連事を、では、一角では、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	利 な家で関のた。 集は、益対たあ 主 地域ながで考 連 受受地の 北 工等あし地。 整に、工本、環 に下が決白え す 益益元本	事保とは関構い、市事地関策を受ける。 南戸要無遅全づ、係状い、町はずり、保に保る心は、神積数望無延文の工条、況。 村はべり 全・する地濫じ。 価・	等対ッ事者 等りり也の 効対すしる 指の象クにの り、頂す 観 果象べたの 指す しょく 対安 標前	里多部り意 意す域対 で てが合い 等回 224.3 のべに策 特 県発 丁安 評24.3 第1000 第1000 第10000 第10000 第10000 第1000 第1000 第1000 第1000 第1000 第1000 第1000 第1000 第1000 第	びるいのら 解緊て田れ 動道が べ 二た域確 動道が ベ 二た域確	DEの策やす。 はまま 事 河合甚ず はまれ 項 川直なと 再 22 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 3 7	ロックのの い方動 が対 の	対沈る時 A かま 不能のよとを語	優がのし 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	しら響い B 評は にはにる動	業い念と を級 育砂当効 ラジシ ラボイン ライン・アイン ライン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・ア	すずる期
業の進歩 社会・経済等の情勢及びその状		おあ () て口との () け川 () 鉄成推揮 () 1 といる。 まれたクらば [別] サれて調 [目に 写可され進す] 必 重 緊	て、そまとと、申 関連・元まい川 目に 葉べ にする 事 ― 要も 一 着まとと、申 連事・元まる川 然な 業べ国、るも 業 ― 性抑・工人ろに部な 事業・受のまが や。 がり道れこの に	利 な家で関のた 集ま 益対たあ 主 地間ながで考 連 受受地工 び等あし地。 の特 者策、り 活 域直どがで考 連 受受地地 里のるて元 整に、エ本、環 に下が決白え す 益益元	事保とは関構い、市事地関策を受けられる。面戸要領度遅くづ、係状い、町はすり、保に保る心はも、評積数望無合延文の工条、況。村はべり、全・す会地濫じ。価	等対ッ事者 等りり也の 効対すしる 指の象クにの り、頂す 観 果象べたの 指す しょく 対安 標前	理多部 り 意	びるいのらい 活果が 、	DEの策やす。 はまま 事 河合甚ず はまれ 項 川直なと 再 22 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 2 2 3 3 7 3 7	ロックのののののののののののののののののののののののののののののののののののの	対沈る時 A か末 河はもの社:	優がのし 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	しら響い B 評は にはにる動	業い念と を級 育砂当効 ラジシ ラボイン ライン・アイン ライン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・アイン・ア	すずる期

総合評価 事業継続 事業見直し継続 休止 中止

総合評価に係るコメント

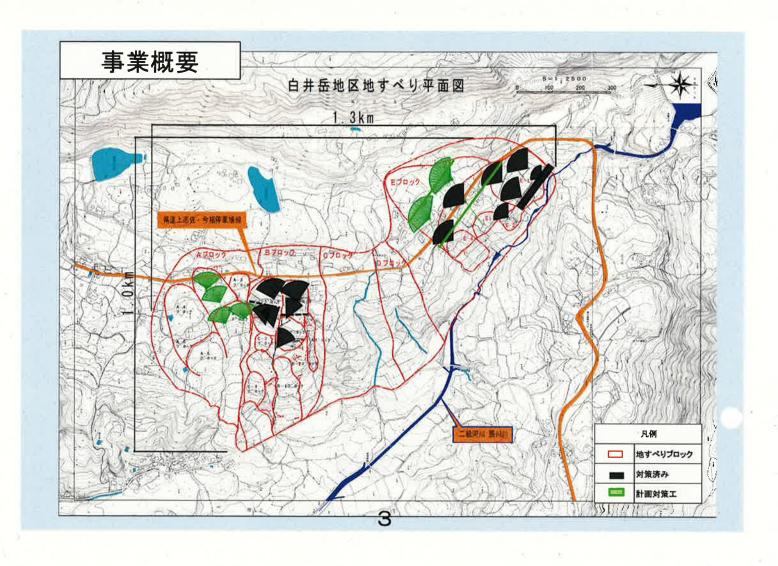
総合計画に張るコメント Bブロックは概成し、Eブロック下部においてはこれまでの対策工により地すべり活動が沈静化し つつあった。しかしながらEブロック上部の工事に対しては、地元関係者の同意が得られておら ず、事業期間の延伸が必要となっている。 当地すべり地直下を流れる調川川下流には調川町市 街地が形成されていることから、これらを保全するためには地すべり活動を減少させる対策工の 施工が不可欠である。このため、今後も事業を継続し当地区における地すべり対策の概成を目指 したい。

再評価対象事業

砂防-4 白井岳地区地すべり対策事業 (地すべり防止施設)

長崎県

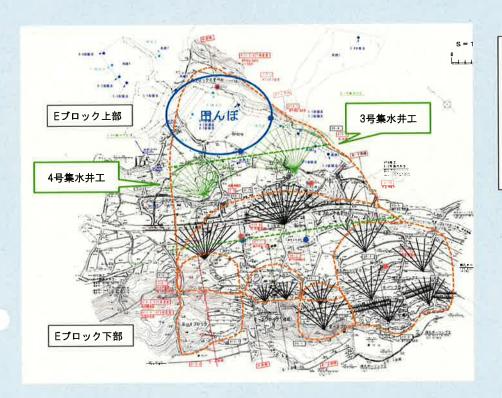






再評価に至った理由(1)

【完了工期】 H30(前回)→ H35(変更)



【経緯】

Eブロック下部のアンカー工等の対策工を施工し、地すべり活動の沈静化を図った。引き続きEブロック上部を計画していたが、周辺の田んぼや井戸の水枯れへの影響が懸念され、一部の地元関係者より同意を得られていない状況である。



【対応】

- ◆事前調査の実施。 (H28~H29実施)
- ◆計画位置の再検討 (H30予定)

5

費用対効果分析

【B/C】2.24(前回)→ 5.33(変更)

〔マイナス要因〕

- ・工期の延長(地元調整)
- ・保全人家数の減少(390戸→388戸)

〔プラス要因〕

〔その他要因〕

・費用対効果算定マニュアルの改定

対応方針 (原案)



継続

砂防-5 里地区地すべり対策事業の経緯

- 1 ★ 4 2 · 1	再評価	I	期	事業費	в/с	概要
審議経過	の理由	着工	完了	(億円)	<i>B</i> / C	1%.实
第1回審議 (H10)	再評価後 10年経過	S56	H17	7.0	7.2	集水井工 8基 集水ボーリング 199本 杭打工 376本 随道工 1孔(L=1133m)
第2回審議 (H15)	再評価後 5年経過	S56	H22	10.7	2.54	集水井工 9基 集水ボーリング 165本(L=8935m) 横ボーリング 104本(L=4240m) 杭打工 110本(L=1500m) 盛土工 2750m3 随道工 1孔(L=1133m)
第3回審議 (H20)	再評価後 5年経過	S56	H25	12.2	2.56	集水井工 11基 集水ボーリング 232本(L=9500m) 排水ボーリング 11本(L=598m) 横ボーリング 86本(L=3560m) 杭打工 131本(L=2043m) アンカーエ 72本(L=866m)
第4回審議 (H25:今回)	再評価後 5年経過	S56	H29	21.1	1.52	集水井工 9基(L=160m) 集水ボーリング 155本(L=5980m) 排水ボーリング 10本(L=591m) 横ボーリング 86本(L=3560m) 杭打工 311本(L=10293m) アンカーエ 72本(L=866m) 随道工 1孔(L=1133m)
第5回審議 (H30:今回)	再評価後 5年経過	S56	Н34	27.1	3.76	集水井工 9基(L=160m) 集水ボーリング 155本(L=5980m) 排水ボーリング 10本(L=591m) 横ボーリング 86本(L=3560m) 杭打工 282本(L=5853m) アンカーエ 72本(L=866m) 随道工 1孔(L=1133m)

- 1	名	Hh.	すべり	対策事	業	地区	2名	里	所	在地	. 1	松浦	市志佐田
価	年度	-15		30年	-14	事業		長崎県		部課	名		部砂防護
,щ.	一人	(1) 建	業目			7-7		24.771					
					0年代》	4.	い地すべい盆	害が報告され、	昭和45	年に際	* 首工	を施工	ال.
		子動に) (2) (5) † (大) ト	していた	0 ~ 100 たが 形	2 T 55	年頃から重	舌動が報告され	道路	家屋等	をに被	害を与	-
- 1								までに調査、観測					
		すべき	で、「こ	カプハ	ひつ 子名 人名	木で† 	5所し、死亡。 5姓夫必要か	対策を実施し、	州オベ	ことが発	東堂(の俯成	ハー をめ
								対象を天心し、	769.) N) M	77	// INL/144	رىج
- [CUA	エの	安定を図	ಶಿವಿ	7 (0)	a ,						
- 1		(a) †	· ナ > 南	# rb co			(#	竹回)		E		(前	同)
				業内容	NI-	0	基	9 基	L=	160 r	~	160	
١		集水丸		. H-	N= N=	155		55 本	L=	5980 r		5980	
		非水和		ングエ	N=			10 本	L=	591 r		591	
							-	86 本	L=	3560 r		3560	
ŧ		横术一		_	N=		-	11 本	_	5853 r		10293	
Į		杭打工			N=	282	-		L=			866	
- 1		アンカ			N=		•	72 本	L=	866 r		1133	
		隧道	ᆫ		N=	1	孔	1 孔	L=	1133 F	n	1133	m
ŀ	- 4	I	新田	再評価	計画	赤面		完成予算	セ年度				T
- 1		■上 E度		度	年		着工時	前回再評価時	計変	時	重調	平価	休止期
ŀ		556		125	<u> </u>	Х	H17	H29	ніх		H:		_
ŀ	事	T	<u>''</u>	20	全体3	其業書	(千円)		前年	痩ま			進捗率
- 1	業	善	L時	一前后	再評価		計画変更	再評価時		千円)			(%)
- 1	費		.000		110,00	and the second	mes.	2,711,000		11,000			77.9
\dashv	A						開始など)	2,711,000		,			
- 1		ᄽ		Λ~ ∩Ω	るユロ	ックに	分かれており	、概成したB、C	ブロック	またてよ じ	ニムブロ	コックチ	いかな流
- 1		コル	714 H	れっしい	い子動い	ナスを記る	ひかず 安定	した状態となっ	アルス	子して	11111	上が上げ	山のムブロ
								エ)の効果によ					
. I		ソエロ	, אלו	71-630		ի այ 🚣	(PE 1 - 7) / 13F PA	工/V/M/木1C6	· / · / ii =/	310-776	AT 100	, , , ,	J W 0
ŧ		(a) +	* -	TL 7 C	ds 102 Z.C	₩ ∧ T	⊞ -ት ፕ⊾ ታ ሮ ል 刀 2ተ						
ונ		- 4	イロス オマスト	及い工	尹胜严	寺のち	生四以い所の マノセス取名	との見通し いせの高いブロッ	いとのな	生 てょ	. 原生	ア車	業をすす
		これ	まで人	家等0	の保全対	対象が	多くある緊急	性の高いブロッ	ククの対	策工を 下を書	優先	して事	業をすす。
<u> </u>		これてきた	まで人 -ところ	、家等 <i>0</i> である	D保全対。 Aブロ	対象が Iック上	、多くある緊急 ・部すべりに	は性の高いブロッ Oいては地下水	位の低	下を実	₹現して	ているだ	が、現在も
<u> </u>		これてきた	まで人 -ところ	、家等 <i>0</i> である	D保全対。 Aブロ	対象が Iック上	、多くある緊急 ・部すべりに	性の高いブロッ	位の低	下を実	₹現して	ているだ	が、現在も
<u>E</u>		これ てきた お地で	まで人ところ	、家等 <i>0</i> である	D保全 。Aブロ 確認さ	付象が ック上 れるた	、多くある緊急 ・部すべりに	は性の高いブロッ Oいては地下水	位の低	下を実	₹現して	ているだ	が、現在も
<u>E</u>		これ てきた お地で (3)関	まで人 ところ ナベリ 連事	、家等の である 変動が 業の整	D保全対 。Aブロ 確認さ 備状況	付象が ック上 れるた	メタくある緊急 ∴部すべりに め杭打工を	は性の高いブロッ Oいては地下水	位の低 業費の増	下を実 動にで	関して 伴い、	ているが 事業其	が、現在も
<u>E</u>		これ てきた お地で (3)関	まで人 ところ ナベリ 連事	、家等の である 変動が 業の整	D保全対 。Aブロ 確認さ 備状況	付象が ック上 れるた	多くある緊急 : 部すべりに : め杭打工を 理事業の完	は性の高いブロッ ついては地下水 もエし、その事態	位の低 業費の増	下を実 動にで	関して 伴い、	ているが 事業其	が、現在も
<u> </u>		これ てきた お地で (3)関 松浦で	まで人 さころ すべり 連事 市計画	家等の変動が 変動が 業の整 事業辻	の保全学 。Aブロ 確認さ 備状況 の尾区	対象が iック上 れるた 画整 (等) の	多くある緊急 一部すべりに め杭打工を 理事業の完 の意向	は性の高いブロッ ついては地下水 布工し、その事業 了により今後も何 平価 AA	位の低業費の増 主宅立地	下を実 曽加に 也が進 A	選現して 伴い、 む見返	ているが 事業其 込み。 B	が、現在も別間の延伸
	· · ·	これ てきた (3)関 松浦 ^で (1)地	まで人たくり	家等の変動が 変動が 業の整 事業 一 登立対策	の保全党 。Aブロ 確認さ 備状況 の尾区 市町本	対象がいったして、国整 (年) のより、対	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 もすべり活動	は性の高いブロッ ついては地下水 を工し、その事業 了により今後も何 平価 AA 量は減少し、地	位の低業費の増生を立地である。	下を実 かが進 るから	現して	でいるが 事業其 <u>込み。</u> B	が、現在も別間の延伸を受けて
		これ てきた (3)関 松浦 ^で (1)地	まで人たくり	家等の変動が 変動が 業の整 事業 一 登立対策	の保全党 。Aブロ 確認さ 備状況 の尾区 市町本	対象がいったして、国整 (年) のより、対	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 もすべり活動	は性の高いブロッ ついては地下水 布工し、その事業 了により今後も何 平価 AA	位の低業費の増生を立地である。	下を実 かが進 るから	現して	でいるが 事業其 <u>込み。</u> B	が、現在も別間の延伸を受けて
		これたお (3)関 (1)地 る。ま	まで人ろり、連事前一元での名	家あるが変動が整連事業 一番	D保全学のAグログラスを Aグログラスを のでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのできます。 でのできまます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできままます。 でのできままままままままままままままままままままままままままままままままままま	対象が上れる事りのよう	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 もすべり活動 寺に地元の要	は性の高いブロック ついては地下水 を工し、その事業 アにより今後も何 平価 AA 量は減少し、地 望が強く、早期	位の低業費の増生を立地である。	下を実 かが進 るから	現して	でいるが 事業其 <u>込み。</u> B	が、現在も別間の延伸を受けて
		こさせ、(3)対 (1) して (2) に (2)	までした。また、小事間である。また、然中間である。 かいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん は	家あるが変動が整連事業 一番	D保全学のAグログラスを Aグログラスを のでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのできます。 でのできまます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできままます。 でのできままままままままままままままままままままままままままままままままままま	対象が上れる事りのよう	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 もすべり活動	は性の高いブロック ついては地下水 を工し、その事業 アにより今後も何 平価 AA 量は減少し、地 望が強く、早期	位の低業費の増生を立地である。	下を実 かが進 るから	現して	でいるが 事業其 <u>込み。</u> B	が、現在も別間の延伸を受けて
		これたお (3)関 (1)地 る。ま	までした。また、小事間である。また、然中間である。 かいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん はいまん は	家あるが変動が整連事業が登り、地域の	D保全学のAグログラスを Aグログラスを のでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのできます。 でのできまます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできまます。 でのできままます。 でのできままままままままままままままままままままままままままままままままままま	対象が上れる事りのよう	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 もすべり活動 寺に地元の要	は性の高いブロック ついては地下水 を工し、その事業 アにより今後も何 平価 AA 量は減少し、地 望が強く、早期	位の低業費の増生を立地である。	下を実 かが進 るから	現して	でいるが 事業其 <u>込み。</u> B	が、現在も別間の延伸を受けて
		てお (3)浦 地れま 自な (3) (4) (3) (4)	まとべ 連計 元また、然し 業計 元また、 然し 業が	、 で変 業事 益対開 活 域の の業 者 策開 活 域 は 大田 は は は は は は は は は は は は は は は は は	の保全ができます。 保本記 状尾 町上地 保 ぼう アンドラ になっています。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	対象かられ 画 等りより 観り かまからない かまり いり 観り まり いり 観り まんり いきん いきん かまれる かんしょう しゅう かんしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しょうしょう しょくしょう しょくしょう しょうしょう しょう	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 り活動 寺に地元の要 点で特記すべ	は性の高いブロックにより今後も何平価 AA 量は減少し、地野望が強く、早期のまます。	位の低業費の増 主宅立地 ・ で 元関係を	下加 M A A M A M A M A M A M A M A M A M A M A M A A A M A A A A A A A A A A A A A	受現して、 む <u>見</u> 一定工で	ているが 事業其 込み。 B か評価成	が、現在も別間の延伸を受けていた。
		てお (3)浦 地れま 自な (3) (4) (3) (4)	まとべ 連計 元また、然し 業計 元また、 然し 業が	、 で変 業事 益対開 活 域の の業 者 策開 活 域 は 大田 は は は は は は は は は は は は は は は は は	の保全ができます。 保本記 状尾 町上地 保 ぼう アンドラ になっています。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	対象かられ 画 等りより 観り かまからない かまり いり 観り まり いり 観り まんり いきん いきん かまれる かんしょう しゅう かんしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しゅうしょう しょうしょう しょくしょう しょくしょう しょうしょう しょう	多くある緊急 部すべりに め杭打工を 理事業の完 意向 り活動 寺に地元の要 点で特記すべ	は性の高いブロックにより今後も何平価 AA 量は減少し、地野望が強く、早期のまます。	位の低業費の増 主宅立地 ・ で 元関係を	下加 M A A M A M A M A M A M A M A M A M A M A M A A A M A A A A A A A A A A A A A	受現して、 む <u>見</u> 一定工で	ているが 事業其 込み。 B か評価成	が、現在も別間の延伸を受けていた。
生は、全年等の		てお (松 (1) る (特 (3)地 ま) 自な 事す	まとべ 連計 元また 然し 業べいたろり 事画 受の宅 やっ がりり	、の変 業事・益対・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の保全ができます。 保全ができます。 保本部のは、 大学では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	対象かられ 画 等りより 観 果象がられ 整 のおり 見り まり	多くある緊急 ・のが打工を対すれて、 ・のが打工を対する。 ・のでは、 ・のででは、 ・のでは、 ・しでは、 ・しでは	は性の高いブロックにより今後も何平価 AA 量は減少し、地質を事項を表すると、	位の低業費の増生主立地元関係を	下 か が A か り が も が も が も が も が も が も が も も が も も も も も も も も も も も も も	選明い、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいるが 事業其 込み。 評価成 が発生	が、現在も別間の延伸を対する。
生物、生物、生物等の情報を表現の情報を表現しません。		てお (3)浦 、	まとべ 連計 元また 然し 業べ大人の 事画 受の宅 や。 がりな	、の変 業事を対地 生 地也被家の動 の業 益対開 活 域直害 は下を)。確 備の 市上地 境 及の及 保A認 状尾 町に域 保 ぽ保ぽ が 景で な 全 す全す	対象の はい	多くある緊急のでは、 はない はい	は性の高いブロックにより今後も位を正し、その事業ではより今後も位をできます。 ではより今後も位をできます。 ではより今後も位をできます。 では、はいますが、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	位費の地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	下 か A A A A A A A A A A A A A A A A A A	選明い、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいるが 事業其 込み。 評価成 が発生	が、現在も別間の延伸を対する。
生は、土が、至年等の青沙		てお (3)浦 (1) こる (3) 地域る (1) こる (2) に 3) 地域る	まとべ 連計 元また 然し 業べ大に人ろり 事画 受の宅 や。 がりな、	、の変 業事 益対地 生 地也被安家あ動 の業 益対開 活 域直害定 者策開 環 に下をし	の 企 備の 市上地 境 及の及た (人) 大尾 町上地 保 ぼ保ぼ社 になる 全 す全す会	対かれ 国 等りあ の 効対も経象クる 画 等りあり 観 果象の済が上た 整 のおり 見 果象の済	多くあべりであるい。 おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	は性の高いブロックにより今後も何平価 AA 量は減少し、地質を事項を表すると、	位費の地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	下 か A A A A A A A A A A A A A A A A A A	選明い、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	でいるが 事業其 込み。 評価成 が発生	が、現在も別間の延伸を対する。
生は、土谷、圣年等の青岑を		てお (3)浦 (1) こる (3) 地域る (1) こる (2) に 3) 地域る	まとべ 連計 元また 然し 業べ大に人ろり 事画 受の宅 や。 がりな、	、の変 業事を対地 生 地也被家の動 の業 益対開 活 域直害 は下を	の 企 備の 市上地 境 及の及た (人) 大尾 町上地 保 ぼ保ぼ社 になる 全 す全す会	対かれ 画 等りあ の 効対も経 指象クる 画 等りあり 観 果象の済 標が上た 整 のりり 観 果象の済 標	多くあべり 事 意 すに か ま で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は性の高いブロックには地の高いブロックには地では地では地では地では地では、その事ではより今後も位をでは、はいるは、中価は、はいるは、中のでは、はいるは、はいるは、はいるは、はいるは、はいるは、はいるは、はいるは、はい	位費・主・一元の低増・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	下曽 がA	理学 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	で事業 みの かん	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生は 土水・圣年等の青岑及ぶ		てお (3)浦 (1) こる (3) 地域る (1) こる (2) に 3) 地域る	まとべ 連計 元また 然し 業べ大に人ろり 事画 受の宅 や。 がりな、	、の変 業事 益対地 生 地也被安 関一家の動 の業 益対開 活 域直害定 連 者策開 環 に下をし す	の。確備の 市上地境 及の及たる 保A認 状尾 町上地 保 ぽ保ぽ社 評 では、	対かれ 画 等りあ の 効対も経 指象クる 画 等りあり 観 果象の済 標が上た 整 のりり 観 果象の済 標	多くすが 事 意 すに で い で い で は	は性の高いブロックにより今後も位を正し、その事業では、その事業では、その事業では、とり今後も位をできます。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	位費・主・一元の低準・主・一別地・一郎がすえられるこれ	下 か A	現け、見 一策 べ地 画	で事業 みの かん	が、現在も別間の延伸を対する。
生歩 土泉・圣年等の青勢をぶそ		てお (松 (1) る (特 (3)地にと 事がれま 自な 事がれと 事	まとく 連計 元また 然し 業べ大に 業へ入ろり 事画 受の宅 や。 がりな、 に	いて変 業事 を対地 生 地也被安 関ー・ 家あ動 の業 益対開 活 域直害定 連 受 者策開 活 域直害定 連 受 番 にてをし す 益	の。確備の 市上地境 及の及たる 面保A 認 状尾 町に域 保 ぼ保ぼ社 評 積 できす会 価	対かれ 画 等りあ の 効対も経 指象クる 画 等りあり 観 果象の済 標が上た 整 のりり 観 果象の済 標	多くあべり 要の まかれす 事の がいまで でででででででででででででででででいる。 がいまででででででででででできる。 でででででできる。 ででででできる。 ででででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 ででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 でででできる。 ででででできる。 でででできる。 ででででできる。 でででできる。 でででできる。 でででででできる。 ででででできる。 ででででででででできる。 でででででできる。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	は性の高いブロックにより今後も位置により今後も位置を表現である。 世界 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	位費・主・一元の低準・主・一別地・一郎がすえられるこれ	下館がA あり 地でる 評○	現け、見 一一策 べ地 画	で事業 みの かん	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生歩 土水・圣年等の青沙及ぶその		てお (松 (1) る (特 (3)地にと 事がれま 自な 事がれと 事	まとべ 連計 元また 然し 業べ大に人ろり 事画 受の宅 や。 がりな、	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の。確備の 市工地境 及の及たる 面戸保A認 状尾 町車域 保 ぽぽぽ社 評 積数する 決区 村でで 全 すきす会 価	対かれ 画 等りあ の 効対も経 指象クる 画 等りあり 観 果象の済 標が上た 整 のりり 観 果象の済 標	多くすが 事 意 すに で い で い で は	は性の高いブロックにより今後も位を正し、その事業では、その事業では、その事業では、とり今後も位をできます。 では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	位費・主・一元の低準・主・一別地・一郎がすえられるこれ	下 か A	現け、見 一一策 べ地 画	で事業 みの かん	が、現在もりは、現の延伸をかります。
D生長 土が・圣年年の青岑及ぶその犬		てお (3) 浦 、	まとべ 連計 元また 然し 業べ大し 業 性人ろり 事画 受の宅 や。 がりな、 に	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の。確備の 市工地境 及の及たる 面戸要全プログ 況区 木にて 全 す全す会 価	対かれ 画 等りあ の 効対も経 指象クる 画 等りあり 観 果象の済 標が上た 整 のりり 観 果象の済 標	多くすが 事 意 すに を いた を いた の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は性の高いブロックには地の高いブロックには地の高いブ下水では、その事がでは、その事がでは、その事がでは、という後も位をでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	位費・主・一元の低準・主・一別地・一郎がすえられるこれ	下曽 がA おべ 。とて	現け、見 一つ策 べ地 画))	で事業 みの かん	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生を一上が、圣筝手の青歩をよらの犬兄		てお (3) (1) ここう (3) 地にと (4) 単れま 自な (4) 単近 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	まとく 連計 一元また 然し 業べ大に 業 一度 一度とく 事画 「その宅」や。 がりな、 に 一性	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関 一 一	の。確備の 市工地境 及の及たる 面戸要拝 保A認 状尾 町工域 保 ぼ保ぼ社 評 積数望無 全プログ 況区 木にて 全 す全す会 価	対いれ 国 等りあ の 効対も経 指象クる 圏 りょり 観 果象の済 標前が上た 整 の り り しとと 清 標前	多くすがれ 事 向べ地 特 ・ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	性の高いブロックでは地の高いブロックでは地の高いでは地の事業では、その事業では、その事業では、まり今後も位置はが強います。 はいまま では、東京のではでは、東京のではでは、東京のではではでは、東京のではでは、東京のではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは	位費・主・一元の「「「「大」」では、「大」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、」のでは、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「	下 か A	現け、見 一つ策 べ地 画))))	で事業 みの かん	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生は、土が、圣年等の青岑をパその犬兄を		こてお (3 M (1 る (5 は る (4) 重 緊 が はれま 自な 事ずれと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 で	まとれ 連計 元また 然し 業べ大に 業 一要 要 急でこべ 事画 受の宅 や。 がりな、 に	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関 一 一	の。確備の 市工地境 及の及たる 面戸要全プログ 況区 木にて 全 す全す会 価	対いれ 国 等りあ の 効対も経 指象クる 圏 りょり 観 果象の済 標前が上た 整 の り り しとと 清 標前	多 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	性の高いブロックでは地の高いブロックでは地の高いでは、そのでは地の事業では、そのでは、まり今(AA)では、「は、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	位費・主・一元の「「「「大」」では、「大」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、」のでは、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「	下曽 が A) おべ 。と a) P) P) B) P) P) P) P) P) P) P	現け、見では、 一策 で地 面))) 」	で事業 みの がの がの がの 発安	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生は、 とを手)有勢となる) 代記		こてお (3 M (1 る (5 は る (4) 重 緊 が はれま 自な 事ずれと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 で	まとく 連計 一元また 然し 業べ大に 業 一度 一度とく 事画 「その宅」や。 がりな、 に 一性	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関 まるが 整辻 者策開 活 域直害定 連 受受地の緊 のあい 整辻 本二発 環 に下をしす 益益元 7急	の。確備の 市工地境 及の及たる 面戸要拝 保A認 状尾 町工域 保 ぼ保ぼ社 評 積数望無 全プログ 況区 木にて 全 す全す会 価	対いれ 国 等りあ の 効対も経 指象クる 圏 りょり 観 果象の済 標前が上た 整 の り り しとと 清 標前	多くすがれ 事 向べ地 特 ・ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	性の高いブロックでは地の高いブロックでは地の高いでは地の事業では、その事業では、その事業では、まり今後も位置はが強います。 はいまま では、東京のではでは、東京のではでは、東京のではではでは、東京のではでは、東京のではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは	位費・主・一元の「「「「大」」では、「大」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、」のでは、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、」のでは、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、」のでは、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「、「	下 か A	現け、見では、 一策 で地 面))) 」	で事業 みの がの がの がの 発安	が、現在もりは、現の延伸をかります。
生は、上京で青歩をような見り		こてお (3 M (1 る (5 は る (4) 重 緊 が はれま 自な 事ずれと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 重 緊 が まままと 事 必 で	まとれ 連計 元また 然し 業べ大に 業 一要 要 急でこべ 事画 受の宅 や。 がりな、 に	家で変 業事 益対地 生 地也被安 関 まるが 整辻 者策開 活 域直害定 連 受受地の緊 のあい 整辻 本二発 環 に下をしす 益益元 7急	り。確備の 市上地境 及の及たる 面戸要員度保A認 状尾 町上域 保 ぽ保ぽ社 評 積数望無合くする 況区 木にて全 す全す会 価	対いれ 国 等りあ の 効対も経 指象クる 圏 りょり 観 果象の済 標前が上た 整 の り り しとと 清 標前	多 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	性の高いブロックでは地の高いブロックでは地の高いでは、そのでは地の事業では、そのでは、まり今(AA)では、「は、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、「は、「は、」では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	位費・主・一元の「飲食者」・一点のの「飲食」・ 関地・ あるらん あるらん おきん かいしょう はんしょう はんしょく	下曽 が A) おべ 。と a) P) P) B) P) P) P) P) P) P) P	現け、見では、 一策 で地 面))) 」	で事業 みの がの がの がの 発安	が、現在を付けませた。

総合評価に係るコメント

総合評価

事業継続

B、Cブロック及びAブロック下部すべりについては、概成し地すべり活動は確認されず安定した状態となっている。残るAブロック上部すべりについては、平成23~24年度に抑制工が完成し、地下水位も計画以上に低下しているが、現在もなお地すべり変動が続いており概成したAブロック下部すべりへの影響も懸念されることから抑止工(杭打工)を実施している。今後も抑止工を継続し当地区における地すべり対策の概成を目指したい。

事業見直し継続

休止

中止

再評価対象事業

砂防-5 里地区地すべり対策事業 (地すべり防止施設)

長崎県







再評価に至った理由(1)

【事業費増】

21.1億円(前回)→27.1億円(今回)

Aプロック下部すべりについては、対策工が完了し安定した状態 となっている。

Aブロック上部すべりは抑制工が完了したが、現在も地すべり活動が続いていることから抑止工を実施。

測量及び設計の結果、必要応力を満足するような杭を検討したところ肉厚が厚い杭を使用することになった。



arrest fil	H25再評価時 (想定)	今回 (実施)	
規格名	SM570	SM570	
杭径(mm)	Ф508.0mm	Ф508.0mm	
肉厚(mm)	19mm	33、40、54mm	
重量(t/m)	0.229 t∕m	0,387, 0.462, 0.605t/m	
杭長(m/本)	32.0m/本	20.5~31m/本	
施工金額(千円)	985,000千円	1,586,000千円 (6.0億増加)	

表-1 設計前の鋼管杭との比較

[事業費増の主な内容]

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①鋼管杭の変更	約6.0億円	現地調査の結果、Aブロック上部の土塊が大きく、必要応力を満足するような杭を検討したところ事業費増となる。
計	約6.0億円	

5

再評価に至った理由(2)

【完了工期】 H29(前回) ⇒ H34(変更)

詳細設計により、必要応力を満足する杭を検討した結果、 従来の杭より肉厚の厚い杭を使用。

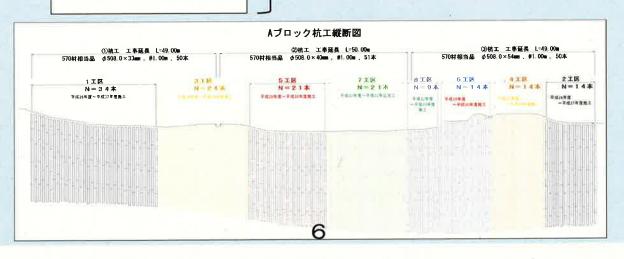
肉厚の厚い杭の製作は特注品となるために従来の製品と比べ製作期間が長い。

杭は現場溶接であるが、鋼管板 厚が従来より厚いことから溶接 に日数を要する。



【平成34年度までの工期延長が必要】

・ 平成29年度時点で、鋼管杭151本のうち106本まで完了 平成30年度以降45本施工



費用対効果分析

【B/C】1.52 (前回) →3.76 (変更)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増額(21.1億円→27.1億円)
- ・工期の延長(平成29年度→平成34年度)

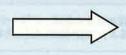
〔プラス要因〕

・保全対象人家の増(88戸→119戸)

〔その他要因〕

・費用対効果算定マニュアルの改定

対応方針 (原案)



継続

南評価に至った風由(1)・

別添資料1

砂防-6 南串地区急傾斜地崩壊対策事業の経緯

SP = ★ 4 文 1 G	再評価	エ	期	事業費	в/с	概要	
審議経過	の理由	着工	完了	(億円)	B/ C		
当初 (H21)		H21	H25	3.0	2.13	工事長L=180m 現場吹付法枠工A=6,000m2	
第1回審議 (H30:今回)	事業採択後 10年経過	H21	H35	5.1	1.04	工事長L=203m 現場吹付法枠工 A=4,251m2 現場打法枠工 A=321m2 プレキャスト法枠工 A=337m2 ノンフレームエ A=3,844m2 落石防止工 A=2,992m2 巨石対策工 1式	
				*			

事業再評価調書

事第	生夕	急傾斜	阿州鹃	壊対策	車業	地区	又名		南串		ĒF	在地			西海市	
	年度	/EX 194/		30年	子木		主体		長崎県	_		部課	名		部砂瓜	
	772	当該部は岩には保よび崩ることを	業目的 地区は 盤が多 全対象 落の土	内 ・長崎県 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ってお ^し 人家15 の危険	西海町 リ、その 戸や、 き性が あ	「北部! 岩盤!: 一般国	- - 位置し、 - は亀裂が - 道道及び - から、当は	がけ高 が発生し その他	所々に 市道がき	配35° 孚石が研 きまれる	の急傾 作認され 。今後	類料地でいい、豪雨	である。 る。斜面 により	斜面 下部 崩壊お	
事業概要		工現現ポープルスのでは、アンないでは、アンスのでは、アンスのでは、アンスのでは、アンスのでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないではないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないでは、アンないではな	長 L=2 欠付法 付法 ストナー 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	枠工 / エ A 卆工 / ・エ A= ・ -	= 321 \= 33 3,844r :2,992 式	lm2 7m2 m2 m2		(前回) (180m) (6,000m	n2)				1 &			
	着	I	前回印	耳評価	計画	変更			ラ	成予定	年度				休止期間	
		度		度		度	差	工時	前回再	評価時	計変	時	再	评価	with	7 4][8]
		21		_		-		H25		- 1	-			35		
	事	ī	_		全体	事業費					前有	度ま			進捗率	
	単業	着コ	r n±	- At 15	再評			画変更	田部	価時		-及よ 千円)	`		(%)	
				削凹	丹計1	川山	AII	型								
	費	300			-			::—:: :::	510	,000	-24	3,000			47.6	
	72	工事县	€L=73		。吹付	法枠コ	_A=61	ょと) 5m2、現)施工に。							れて	
事業の進捗	(2)未着工及び工事遅延等の理由及び解決の見通し 当初は現地踏査結果から、対策工を決定していましたが、平成21年度の事業着手後に樹木の 採等に伴い斜面中に不安定な巨石が存在していることが確認されたことから、巨石対策工を										の伐 追加 C					
社会・経済な		事業の(2)自 工事(3)事	がまた。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	生活環境	れてい 寛保全 を念され 及ぼす	る(年 の観) れたこ 効果	1回、 ¹ 点で特 とから	也元調整 記すべき 、汚濁防	事項 止膜L=	-20mをシ						
の 情 勢 及	等 保全範囲には家屋15戸に加え、一般国道およびその他市道が含まれるため、崩壊対策の れらを保護し、安心安全な民生を確保する。 情 (4)事業に関連する評価・指標等 及										. , _					
び				552 -14-	- 1÷		기 비 비		P	郭価時	-	評	_	VH	73	
そ		心耳	要性	受益					 			<u>C</u>				
の		2.3	~ 1-	受益			15			15		C				
状況		重要	要性	地元の存	無		有	i l		有		С				
変		緊急	急性	緊急	度合		国道4	0m	3	国道40 m	n	高			1	
化			產性	投資			2.13		1	1.04		4				
16	-	1生7	HII	汉貝	が		2.10		1	1.04						
-	 [土オ	部とし	ての総	合評価	5と対応	む方針]	評	西	AA	• (A		В		С
100																
10		総合評(業継	続	>	事業見直	1し継続	t	休』	Ė	中	止		

再評価対象事業

砂防-6 南串地区急傾斜地崩壊対策事業 (急傾斜地崩壊防止施設)

長崎県







再評価に至った理由

【 工 期 】 H25(前回) → <u>H35(変更)</u>

【事業費増】 3.0億円(前回)→ <u>5.1億円(変更</u>)

巨石対策工を追加したことによる事業費と工期の増:現地着手後に詳細な調査及び伐採等を行ったところ、施工段階にて斜面中に不安定な巨石が存在することが明らかになったことから、巨石対策が必要となった。



[事業費増の主な内容]

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①巨石除去工	約2.0億円	施工段階にて斜面中に不安定な巨石が存在することが明ら かとなり、これの除去等に費用を要するため。
その他	約0.1億円	労務単価・資機材等の単価上昇、現地精査による数量変更等
計	約2.1億円	

5

費用対効果分析

【B/C】2.13(前回)→ 1.04(現行)

[マイナス要因]

- ・事業費の増加(巨石対策工追加)
- ・工期の延長(巨石対策工追加)

対応方針 (原案) 継続

別添資料1

砂防-7 多以良地区急傾斜地崩壊対策事業の経緯

対理 3並 火又 \ Д	再評価			事業費	B/C	概要	
審議経過	の理由	着工 完了		(億円)	0	194.35	
当初 (H21)	110	H21	H27	3.7	2.49	工事長L=430m 現場打法枠工A=6,450m2	
第1回審議 (H30:今回)	事業採択後 10年経過	H21	H35	8.9	1.13	工事長L=500m 現場打法枠工A=4,621m2 プレキャスト法枠工A=2,000m2 土砂補足工L=252m アンカーエN= 200本 鉄筋挿入工A=3.291m2	

事業再評価調書

				12 1 ATT 1			27 IN D				=
事業		急傾	斜地崩			区名	多以良	所在地		西海	
评価年	年度			年度	事	業主体	長崎県	担当部課	名	土木部研	沙防課
事業概要		当崩被他定 (工現プ土ア)該域害計さ 主長打や扱力	を想道れなし、大い捉してとこと組た 業の以上が 実のない 大い 実の はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はい こうしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいい はい	長崎県 している 域内には 塚線、 その め、 斜面 内容	危険箇所で は、人家20戸 ひ他市道クロ 対策工を施 21m2 000m2	がある。 〒(うち1戸はダ ウカキ線が存在 近す事で被害を (前匝 (430)	••	とである多以 発生した際に	3) 及び、そ		
								_ 4:			
		I		再評価	計画変更		完成予定			- 体	止期間
		度	年	度	年度	着工時	前回再評価時	計変時	再評	"価	- 7011F
		21	-			H27		-	H3		-
	事	-	— n±		全体事業費 再評価時		再評価時	前年度ま (千円)		進捗	-
	業費		L時 .000	削旧	中計1111111111	計画変更	887,000	370,000		(%) 41.7	
-+				Λ&IE√	犬況(供用 開	目がたけたばり					
		30mを	越す長	大斜面で	遅延等の理 ごあり、上段 工笛所に至	から一段ずつ	順に下りてくる逆	巻き施工では	あるため。 か 漫動	、時間を要ない。 を止める知	す現場 ルエ/
集りた		30mを である ンカー 以上の 画に沿 (3)関	越す長。また、)を現は、事業	大斜面で現在施 現在施 対法枠 より、対	であり、上段 工箇所に至 エと併せてが 策に期間を が図れるもの	から一段ずつ っては、地すへ 施工しており、	順に下りてくる逆 くり性の挙動が飛 尚更に期間を要 、現施工斜面以外	E認されたたる す箇所となっ	め、滑動 ている。	を止める抑	正工(.
事業の進歩		30mを である ンカー 以上の 画に沿	越す長。また、)を現は、事業	大斜面で現在施 打法枠 より、対 業進捗が	であり、上段 工箇所に至 エと併せてが 策に期間を が図れるもの	から一段ずつっては、地すったは、地すったは、大地すったまり、 でましているがいと見通しているがのと見通してい	順に下りてくる逆 くり性の挙動が破 尚更に期間を要 、現施工斜面以外 る。	を認されたたとす 箇所となっ トは、地すべ	め、滑動 ている。	を止める抑	止工(
業の 生歩		30mを でカー 以画に (3)関 (1)地	越ま現のとことである。 きままま はまままま はままま はままま できまま できまま できまま しゅう こく かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	大斜面で 現在格: 計法り、対 よと進 の整備な と者、市	であり、上段工工的所に至工と併せてがまに期間をが図れるもの状況	から一段ずつっては、地すったは、地すったましており、 要しているが と見通してい	順に下りてくる逆 くり性の挙動が飛 尚更に期間を要 、現施工斜面以外	記されたたらず箇所となっ 外は、地すべ	め、滑動 ている。 り性の賃	を止める抑	止工(
関の進歩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		30でン以画(特 (事 (特 ()人及からのあり上に) (1)業 ()に () 家び、自な 事 20、	越。)を理い連し 元進 然し 業 戸副すま現由、事 (後捗 や が 戸次 上、場に事業 一受を 生 地 ち的	大現打よ業の 益望 活 域戸果 おれたい 進整 、ま 環 に 戸果で アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・アッチ・	であり、 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	から一段ずつった。というでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	順に下りてくる逆 くり性の挙動が確 尚更に期間を要 、現施工斜面以外 る。 評価 AA	認されたためず箇所となっています。 すの意見 での意見	か、滑動 でいた でん かん かん かん かん かん かん かん でん でん でん でん でん かん	を止める抑 所はないが B っている)。	止工(こめ、)
業の進歩 土di・译斉等の青勢及び		30でン以画(特 (1事 (特 (1)人及の) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (越。)を理い連し 元進 然し 業戸副安すま現由、事 ((り掛 や が)で次心長に場ば事業 受疹 生 地方的を	大現打よ業の 益望 活 域1効確斜在法り進整 、ま 環 に 戸果保 の 一次です	でエン策の状 町で 呆 ま 害国る であり、所供期る いの 対 要 102 で 大 に せ 間 も の 対 要 202 で 標 段 至 で が 標 と に は に は に は に は に は に は に は に は に は に	からは、では、おいでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	順に下りてくる逆 くり性の挙動が研 いり世に期間を いり更に の の の を の の の の の の の の の の の の の の の	認されたためす箇所となって す箇所となって 小は、地すて の 意見 の 意見 の 意見 の 意見 の 意見	か、滑動。6番	を止める抑 所はないが B ・ っている)。	止工(こめ、)
業の進歩 土金・径斉等の青駒及ぶそ		30でン以画(特 (1 事 (特 (1 人及の) 大き (1) 業 (1) まび安 (1) まび安 (1) まび (1) まび (1) まで	越。)を理い連し 元進 然し 業戸副安すま現由、事 ((り掛 や が)で次心長に場ば事業 受疹 生 地方的を	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連斜在法り進整 、ま 環 に 戸果保 すの施枠対が備 市れ 境 及災です る	で 工工 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	から一段ずつかった要は、おり、では、ていているでは、では、でいるでは、では、おり、がいでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	順に下りてくる逆 くり性の挙動が研 いり世に期間を要いる。 不価 AA 本項 保育園(多以良係	認されたためす箇所となって す箇所となって 小は、地すて の 意見 の 意見 の 意見 の 意見 の 意見	か、滑動 でいた でん かん かん かん かん かん かん かん でん でん でん でん でん かん	を止める抑 所はないが B っている)。	止工(こめ、)
業の進歩 土金・径斉寿の青勢及ぶその		30でン以画(3 (本) (本) (本) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	越。)を理い連し 元進 然し 業戸副安すま現由、事 ((り掛 や が)で次心長に場ば事業 受疹 生 地方的を	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連 斜在法り進整 、ま 環 に 戸果保 す 受	で エエ まで 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	からは、では、おいでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	順に下りてくる逆 くり性の挙動が研 いり世に期間を いり更に の の の を の の の の の の の の の の の の の の の	認されたためず箇所となった。 す箇所となっ、 トは、地すべ A 意見 ・ 要望の意見 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	か、滑動。6番	を止める抑 所はないが B ・ っている)。	止工(こめ、)
業の進歩 生会・径斉等の青勢及ぶその犬兄変――――――――――――――――――――――――――――――――――――		30でン以画(特 (1 事 (特 () 人及の () 上に) 業)に)家び安) が (1 事 2)、全 事 必	越。)を理い連し 元進 然し 業 戸副安 業 すま現由、事 (歩 や が (次心 に 長 た 場に事業 一	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連斜在法り進整 、ま 環 に 戸果保 すの施枠対が備 市れ 境 及災です る	でエエ策図沢 町で、 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	からはているで、	順に下りてくるでは、	認されたためず箇所となった。 す箇所となって トは、地ずで A 意見 変望の意見 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	か、滑動。 6 でに ある こここ でに でに でんし かっこう かっこう かっこう かっこう かっこう かいがっこう しんしょう かいがっし かいがっ かいがっ かいがっ かいがっ かいがっ かいがっ かいがっ かいがっ	を止める抑 所はないが B ・ っている)。	止工(Coの保証
業の進歩		30でン以画(特 (事 (特 (3 人及の (4) 重 を る 一 の 注関な 地 の 自な 事 2 (文全 事) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	越。)を理い連し 元進 然し 業 戸副安 業 医すま現由、事 (後 や が 戸次心 に 性 長 た 場に事業 学 登を 生 地 ち的を 関	大現打よ業の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	でエエ策の状 町で 呆 ぎ害国る 平 面言 要 無 か	からは、では、おいでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	順に下りてくる逆 くり性の挙動が発 りり更に期 り更に加 いのである。 平価 AA 進 を 中面で毎年、進 を は ので 中面で 中面で 中面で 中面で 中面で 中面で 中面で 中面で 中面で 中面	認されたためず箇所となって、 ・	か、滑動。 6	を止める抑 所はないが B のでいる)。 人地は 備考	止工(Coの保証
		30でン以画(特 (事 (特 () 人及の () 上に)業 ()に)家び安 () 上	越。)を理い連し 一元進 然し 業 戸副安 業	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連 学の おればり進整 よま 環 に 戸果保 す 受受地の面施枠対が備 市れ 境 及災でする 益益元勇有	で工工策が犬 町で 呆 ぎ 害国る 砰 面言 要 無 要 あ 箇とにれ い 全 す 時道と	からは、 からは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	順に下りてくるがいいいでは、り性の学動がである。	認されたためず箇所となって、 ・	か、滑動。 6	を止める抑 所はないが B でいる)。 人地は 備考	止工(とめ、)
		30でン以画(特 (事 (特 () 人及の () 上に)業 ()に)家び安 () 上	越。)を理い連し 一元進 然し 業戸副安 業	大現打よ業の き望 活 域1効確 連 受受地の緊斜在法り進整 、ま 環 に戸果保 す 受受地の緊面施枠対が備 市れ 境 及災でする 益益元項有別	で工工策が犬 町で 呆 ぎ 害国る 砰 面言 要 無 要 あ 箇とにれ い 全 す 時道と	かっ 施要と	順に下りでは、 いり性の期間である。 平の世の期間である。 平の世の期間である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にの関係である。 平面にののでのである。 平面にののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	認されたためずは、地ずで、 ・ タ の 意見 の 意見 で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	かいい かい かい かい かい かい かい かい かい こここ ここここ ここ	を止める抑 所はないが B つている)。 クロックののは、 の。 の。 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 ののは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	止工のの保持
業の進歩 土会・圣斉寿の青駒及ぶその犬兄変と	r++	30でン以画(特 (1 事 (特 (3 人及の (4) 事) を る一の 注関な 地の 自な 事 2 (文全 事) 勇 賢 経	越。)を理い連し 元進 然し 業戸副安 業 と 要 急済すま現由、事 (後 や が う次心 に 性 性性長に場に事業 ・ 受疹・生・地 ち的を 関	大現打よ業の き望 活 域1効確 連 受受地の緊投斜在法り進整 、ま 環 に戸果保 す 受受地の緊投面施枠対が備 市れ 境 及災でする 益益元項有原教	で工工策が伏 町で 呆 ま 害国る 平 面言 要 無 要 物 あ 箇とにれ い 全 す 時道と は い 所併期る り 年 観 果 援22が 標 上にせ間も の 印 東 援22が 標 段至でを が 標 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要	かっ 施要と	順に下りでは、	認されたためず箇所となって、 ・	か、滑るの か	を止める抑 所はないが B でいる)。 人地は 備考	止とめ、
業の進歩 生会・径斉等の青勢及ぶその犬兄変と		30でン以画(3 特 (1 事 (3) 人及の (4) 単 が をる一の光関な 地の 自な 事 2 、全 事 必 重 緊経 して	越。)を理い連し 元進 然し 業 戸副安 業	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連 受受地の緊投 評別在法り進整 、ま 環 に 戸果保 す 受受地の緊投 価値施枠対歩備 市れ 境 及災でする 益益元勇有原教 と	で工工策の犬 町て 呆 まっちる 平 面っ 医・無度的 対し あいちにれい 今 す 時道と 価 積数望 一 一 の が 要 202が 指 上にせ間も の 年 観 果 援 22が 標 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	かっ を 要 い で を を を を で を を で を を で を を で を を で で を を で で を で	順にするがいい はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり はいり もの がい はいり もの がい はいり もの はい	認されたためずは、 ・	かいけん かん こここ 価 つ つ 高中 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を止める抑 所はないが B ・	止工(こめ、)
業の進歩 生会・径斉等の青勢及ぶその犬兄変と		30でン以画(特 (1 事 (特 (3 人及の (4) 事) を る一の 注関な 地の 自な 事 2 (文全 事) 勇 賢 経	越。)を理い連し 元進 然し 業 戸副安 業	大現打よ業の 益望 活 域1効確 連 受受地の緊投 評別在法り進整 、ま 環 に 戸果保 す 受受地の緊投 価値施枠対歩備 市れ 境 及災でする 益益元勇有原教 と	で工工策が伏 町で 呆 ま 害国る 平 面言 要 無 要 物 あ 箇とにれ い 全 す 時道と は い 所併期る り 年 観 果 援22が 標 上にせ間も の 印 東 援22が 標 段至でを が 標 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要	かっ を 要 い で を を を を で を を で を を で を を で を を で で を を で で を で	順に下りでは、 いり性の期間である。 平の世の期間である。 平の世の期間である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にて毎年である。 平面にの関係である。 平面にののでのである。 平面にののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	認されたためずは、地ずで、 ・ タ の 意見 の 意見 で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	かいい かい かい かい かい かい かい かい かい こここ ここここ ここ	を止める抑 所はないが B ・	止工のの保持

再評価対象事業

砂防-7 多以良地区急傾斜地崩壊対策事業 (急傾斜地崩壊防止施設)

長崎県







再評価に至った理由

【 工 期 】H27(前回) → <u>H35</u>(変更) 【事業費増】3.7億円(当初) → 8.9億円(変更)

当初計画からの全体計画範囲や工法の変更による 事業費の増加および工期の延長

現地の詳細調査を行ったところ、地すべり性の拳動が見られる箇所が確認されたため、 これに伴う抑止工としてアンカー工を採用する等、当初予定していなかった工種が必要 となったため、事業費が増加している。

また、上記工法については、上段から順に施工していく逆巻き施工が必要であることや、地すべり性の調査等に時間を要したため事業期間が延長した。



[事業費増の主な内容]

事業費増の内容	増額	主な増額理由			
①対策工の増	約4.8億円	現地の詳細測量の結果、地すべり性の挙動が確認され、これの対策が必要となったため。			
その他	約0.4億円	労務単価・資機材等の単価上昇、現地精査による数 量変更等			
計	約5.2億円				



5

費用対効果分析

【B/C】2.49(前回)→1.13(現行)

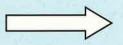
[プラス要因]

・保全対象人家の増加(13戸→20戸)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増加(対策工法の追加・増工)
- ・工期の延長(対策工法の追加・増工)

対応方針 (原案)



継続